

グローバル人材として生徒に育成したい資質・能力の設定と実践

— 総合的な探究の時間の振り返りシートを手がかりに —

高見 委三*, 西村 公孝**, 金児 正史**

(キーワード: 総合的な学習(探究)の時間, グローバル人材, ポートフォリオ, 振り返り)

I 問題の所在

A 県の公立 B 高等学校(以下、B 校)は、大学進学率が高く、県内では進学校として位置づけられている。卒業生には、郷土・地域だけではなく、世界のリーダーとして活躍している人も多く、進学指導に力を入れてきた成果といえる。生徒達は素直で真面目であり、文武両道をめざし、学校生活全般に主体的・意欲的に取り組んでいる。その一方で、自己の成績に高い関心を持ち敏感であるがゆえに、より高い学歴を求めて進路選択をしたけれども理想と現実に悩む者がいる。また、将来、どの分野の職業に就くかは、どんな学部や大学に進学するかに大きく関わっているはずだが、将来への明確な夢や目標が持てない者もいる。

このように、高学歴の大学に入学することを目的にするのではなく、大学卒業以降の将来像を思い描きながら、自己実現に向けて進路に対する意識を高め、主体的に進路選択ができるよう、自己の在り方・生き方を考える力の育成は、非常に重要なことであるものの、実現するための手立てが不足していることは、進学校が抱える課題の一つである。B 校も例外ではない。

そうした状況の中でも B 校は、これまで、生徒一人一人の夢・目標の実現を目指すとともに、郷土・地域を担う人材、国際社会で活躍できる人材、これからの社会でリーダーとなるべき人材を育成していくために、教科学習や教科外学習のほか、総合的な学習の時間に取り組んできた。また、平成 26 年度より 5 年間は、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け、グローバルリーダーに求められる資質・能力の育成に特に力を入れて、郊外活動や総合的な学習の時間を活用した実践を行ってきた。特に総合的な学習の時間のカリキュラム編成は、自己実現に向けて進路意識を高め、主体的に進路選択し、将来グローバルリーダーとして活躍できる力を養うことを目的に課題研究を取り入れ、第 2 学年を中心に実施している。B 校の各学年の総合的な学習の時間のねらいは

次の通りである。

それでもなお、教員間や学校全体で、グローバル人材としてのグローバルリーダーに求められる資質・能力の育成に向けた活動であるという共通理解が深まらないまま、授業としてこなしている状況も見受けられた。

第 1 学年

講演会を通して、国際的素養や知識の習得と国際問題への関心の向上を図り、各講演の事前・事後指導のディスカッションや協働的学習を通して、論理的思考力や国際的素養の深化を目指す。

第 2 学年

課題研究に取り組み、課題研究テーマ設定、論文作成、プレゼンテーションに関する「ループリック評価」により、個々の資質向上を目指す。

第 3 学年

進路を見据えた「テーマ学習」を通して、現代社会に対する関心と深い教養、批判的思考力等の育成を目指す。

総合的な学習の時間も含む SGH 事業の総括から、その成果と課題がまとめられた(資料 1)。これらの課題を SGH 事業の一部だった総合的な学習の時間でも改善を図ろうとして、本実践研究を行った。

成果	・ループリック評価の有効性 ・国際的素養や態度の習得
課題	・めざす生徒像の再確認・再定義 ・テーマ設定方法の再検討 ・探究時間の確保と効率的な取組方法の模索 ・何を育成するかを明確化

資料 1 SGH 事業の成果と課題

高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)では、総合的な学習の時間から総合的な探究の時間に名称変更され、より探究的な活動を重視し、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度等の育成が求められている。そこで B 校での総合的な学習(探究)の時間(以下、総合的な探究の時間)をより充実させていくために、平成 30 および 31(令和元)年度における総合的な探究の時間の企画・

*徳島県立城之内中等教育学校

**鳴門教育大学 高度学校教育実践専攻(教職系)

運営に携わり、SGH 事業の成果と課題を踏まえつつ、工夫と改善を図った。ここでは、その具体的実践内容の分析と考察について記す。

II 総合的な探究の時間の必要性と重要性

急激な社会変化が予測される Society5.0¹⁾ 時代に向けて、学校教育は変革期にある。平成 30 年 3 月に高等学校の新学習指導要領が告示され、持続可能な社会の創造を目指し、社会に開かれた教育課程を通じて、生きる力を育成することが明記された²⁾。新学習指導要領は、生きる力の育成を実現するためには、学力の 3 要素をバランスよく育成する必要があると述べている。また、主体的・対話的で深い学びを重視するとともに、教科学習だけではなく、総合的な探究の時間を通して、自分と実社会や実生活を結びつけながら課題を発見し、学んだ知識・技能を活用しながら、主体的・協働的に探究活動することによって、新しい価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。学校教育で生きる力を育成し、自分と実生活をつないで課題を自ら見出して解決しようとしていくことが実現できれば、Society 5.0 時代に求められている資質・能力を生徒が身につけていくことに直結していこう。

急激な社会変化の中で学校教育を考えてみると、高等学校では、教科学習、学校行事、総合的な探究の時間を関連させながら、教師は生徒一人一人に自己の在り方・生き方を考えるように促し、自己の特性も見極めた進路を選択していけるような教育が、これからは重要になるだろう。そうした視点から捉えると、総合的な探究の時間は重要であることが明らかである。このように考えて、本実践研究では B 校における SGH 事業の課題を総合的な探究の時間に限定して研究を進めることにした。

III 研究方法・内容

第 2 学年 318 名を対象とした総合的な探究の時間では、生徒の興味・関心に応じて課題研究を行った。課題研究は 68 班に及んだ。

また筆頭筆者は、総合的な探究の時間で生徒が身につけて欲しい資質・能力に関して、4 観点 12 評価項目に基づくルーブリックを作成し、自己評価を実施した。ルーブリックの観点および評価項目は、表 1 の通りである。

実施時期は、課題研究実施前（4 月）と中間発表実施後（12 月）の 2 回である。生徒の自己評価は、ルーブリックによる自己評価と自由記述で構成されている。これを用いて、生徒の資質・能力の変容を把握した。本研究における、総合的な探究の時間の学校全体のカリキュラムの中で評価できる資料は、生徒の自己評価だけであ

表 1 身につけて欲しい資質・能力の観点・評価項目

観点	評価項目	
叡智	①	幅広い知識・技能、教養（教科、科目）
	②	幅広い知識・技能、教養（グローバルな視点）
探究	③	論理的思考力
	④	批判的思考力
	⑤	課題発見能力
	⑥	課題解決能力
協働	⑦	コミュニケーション能力（発言）
	⑧	コミュニケーション能力（協働）
	⑨	プレゼンテーション能力
貢献	⑩	主体性、積極性
	⑪	責任感、倫理観、社会貢献
	⑫	リーダーシップ

る。本実践研究では、授業中の生徒の様子を個別に観察できていないためである。

ルーブリックを用いた自己評価を分析した結果、12 の全ての評価項目において、学年全体の平均値の上昇が確認できた。そこで、68 班の課題研究班のうち、中間発表後に課題研究発表会の代表班に選出された 8 班の生徒（60 名）について、評価項目の上昇数と下降数について分析し、資質・能力が向上した項目数の方が多い班と資質・能力が下がった項目数の方が多い班の 2 グループに分け、それぞれの傾向を検証した。また、自由記述に関しては、記述内容を 4 観点に分類し、内容に応じて色分けした。色分けについては、赤：「～したい」「～すべき」「心がける」等、意欲に関する記述、緑：「低い」「よわい」「不足」等、否定的記述、黄：自己認識している資質・能力に関する記述、青：できるようになった事柄に関する記述となっている。どれにも色分けできなかった記述については「－」とした。また、4 観点にあてはまらない記述は「その他」とした。

IV 実践研究の実際

1 身につけて欲しい力の設定、資質・能力の可視化

平成 30 年度中に、生徒に身につけて欲しい資質・能力の明確化・焦点化を図るために、総合的な探究の時間の企画・運営をする組織を中心にワークショップや検討会、職員アンケートを実施した。

その結果、「叡智」、「探究」、「協働」、「貢献」の 4 つの観点から、B 校がめざすグローバル人材像を構図化することができた（図 1、表 2）。

また、4 つの観点から 12 項目に細分化した資質・能力を評価項目ごとに 4 段階評価で示したルーブリックを作成した（表 3）。ルーブリックにより目標が具現化され、

表2 身につけて欲しい資質・能力

生徒につけたい資質・能力			文部科学省 育成すべき資質・能力 (3つの柱)との 関連	
WHY	散智	幅広い知識・技能、 教養	各教科・科目の知識・技能を身に付け、社会、文化、自然を関連づける幅広い教養がある。 グローバル時代に必要となる豊かな知見を持っている。	個別の知識・技能 「何を知っているか、 何ができるか」
	探究	論理的・批判的 思考力 課題発見・解決 能力	情報や知識について、根拠に基づき、論理的・客観的・多面的に検討し、自分の考えが正しいかどうか判断することができる。 主体的に目的や課題を発見し、解決に必要な情報を収集・整理・分析し、解決策を述べるができる。	思考力・判断力・表現力等
WITH	協働	コミュニケー ション 能力 プレゼン テーショ ン 能力	自分の考えをしっかりと伝えつつ、他者の意見や価値観を受け入れ、協働的に物事に取り組むことができる。 自分の意見を整理した上で、相手に理解してもらえるように、学習（発表）内容を文章やスライドに分かりやすくまとめ、的確に伝えることができる。	「知っていること・ できることをどう使 うか」
	貢献	主体性、 積極性、 責任感、 倫理観、 社会貢献 リーダー シップ	地域社会や国際社会の発展のために、やりたいこと、できること、すべきことを判断し、自ら進んで、責任を持って取り組むことができる。 目標達成に向け、指示を出し、チームをまとめ、導いていくことができる。	学びに向かう力、人間性等 「どのように社会・ 世界と関わり、よ い人生を送るか」

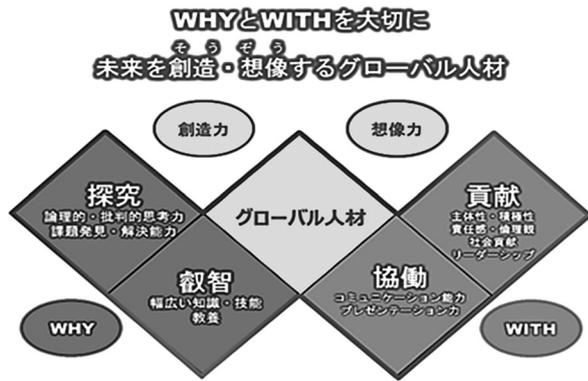


図1 B校がめざすグローバル人材像

これに基づきながら自己評価を行うことで、生徒は自己を見つめ直す機会を得るだけでなく、目的意識を持って取り組むことができると考えたからである。さらに、課題研究を通して資質・能力を身につけていくことが意識できるように、総合的な探究の時間の年間計画に、身につけたい資質・能力や探究サイクルとの関係を明示す

表3 自己評価のためのルーブリック評価表

ルーブリック表 ☆自己評価☆ 評価段階1～4から選んで、振り返りシートにマークしてください

資質・能力	評価項目 (①～⑫)	評価段階 1	評価段階 2	評価段階 3	評価段階 4	
散智	幅広い知識・技能、 教養	①各教科・科目の知識・技能を身に付け、社会、文化、自然を関連づける幅広い教養がある。	各教科・科目の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていない。	各教科・科目の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	各教科・科目の標準的な知識・技能を身に付けている。	各教科・科目の専門的（応用的、発展的）な知識・技能を身に付けている。
	②グローバル時代に必要となる豊かな知見を持っている。	グローバルな視点を持って物事を考えようとしていない。	グローバルな視点を持って物事を考えている。	グローバルな視点を持って、様々な分野の知識を関連付けて物事を考えることができる。	グローバルな視点を持って、様々な分野の知識を関連付け、新しい知識を築くことができる。	
探究	③情報や知識について、根拠に基づいて検討し、自分の考えを論理的に述べるができる。	インターネット資料でしか情報収集をしていない。	論文・書籍を活用して情報収集をしている。	複数の論文・書籍を活用して情報収集をしている。	複数の参考文献やフィールドワークなどを適切に利用し、情報収集をしている。	
	④情報や知識について、根拠に基づき、論理的・客観的・多面的に検討し、自分の考えが正しいかどうか判断することができる。	自分なりの意見がない。	自分なりの意見を導き出そうとしているが、論理的、客観的、多角的考察が不十分で、根拠が薄い。	根拠に基づいて、客観的・多角的に自分なりの意見を導き出しているが、論理的に飛躍している。	根拠に基づいて、客観的・多角的に自分なりの意見を導き出すとともに、論理的に納得できる。	
	⑤主体的に目的や課題を発見し、解決に必要な情報を収集・整理・分析することができる。	疑問や問題点を見出すことができていない。	疑問や問題点を見出し、その問題を取り上げた理由や背景を述べているが、不十分である。	疑問や問題点を見出し、その問題を取り上げた理由や背景を述べ、情報収集・整理・分析しているが、不十分である。	疑問や問題点を見出し、その問題を取り上げた理由や背景を述べ、情報収集・整理分析することができる。	
	⑥目的や課題の解決に必要な情報を、収集・整理・分析しながら、自分なりの意見を述べることができる。	解決に向けた自分なりの意見を述べられない。	解決に向けた自分なりの意見を述べようとしているが、わかりにくい。	解決に向けた自分なりの意見を整理して述べている。	解決に向けた自分なりの意見を整理して述べ、わかりやすい。	
協働	⑦自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを伝えられない。	自分の考えを伝えてはいるが、わかりにくい。	自分の考えを整理して伝えることができる。	自分の考えを整理して、相手にわかりやすく伝えることができる。	
	⑧他者の意見や価値観を受け入れ、協働的に物事に取り組むことができる。	他者の意見や価値観を受け入れようとせず、自己主張をする。	他者の意見や価値観を受け入れようとしている。	他者の意見や価値観を受け入れている。	他者の意見や価値観を受け入れ、協働的に物事に取り組んでいる。	
貢献	⑨自分の意見を整理した上で、相手に理解してもらえるように、学習（発表）内容を文章やスライドに分かりやすくまとめ、的確に伝えることができる。	学習（発表）内容について、整理されていないため、説明がわかりにくい。	学習（発表）内容について、整理が不十分ため、説明がわかりにくい。	学習（発表）内容について整理され、的確な表現で説明している。	学習（発表）内容について、誰にでも分かりやすく整理され、的確な表現で説明している。	
	⑩自ら進んで、責任を持って取り組むことができる。	自ら進んで、取り組もうとしていない。	自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら進んで、取り組むことができる。	自ら進んで、責任を持って取り組むことができる。	
貢献	⑪地域社会や国際社会の発展のために、やりたいこと、できること、すべきことを考え、取り組むことができる。	地域社会や国際社会の発展に関心がない。	地域社会や国際社会の発展に関心を持っている。	地域社会や国際社会の発展のために、やりたいこと、できること、すべきことを考えている。	地域社会や国際社会の発展のために、やりたいこと、できること、すべきことに取り組んでいる。	
	⑫目標達成に向け、指示を出し、チームをまとめ、導いていくことができる。	指示を出さず、チームをまとめることができない。	指示を出し、チームをまとめていこうとしている。	チームが動きやすいように気遣いしながら指示を出し、チームをまとめ、導いていくことができる。	チームが動きやすいように気遣いながら指示を出し、チームをまとめ、導き、メンバーからも信頼されている。	

るとともに、ポートフォリオ活用イメージ図を作成し、可視化を図った(表4, 図2)。

表4 探究サイクルと資質・能力の関係

探究サイクル	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
資質・能力				
WHY	叡智	幅広い知識・技能, 教養		
	探究	課題発見能力	論理的・批判的思考力	課題解決能力
WITH	協働		コミュニケーション能力	
	貢献		プレゼンテーション能力	
	主体性, 積極性, 責任感, 倫理観, 社会貢献, リーダーシップ			

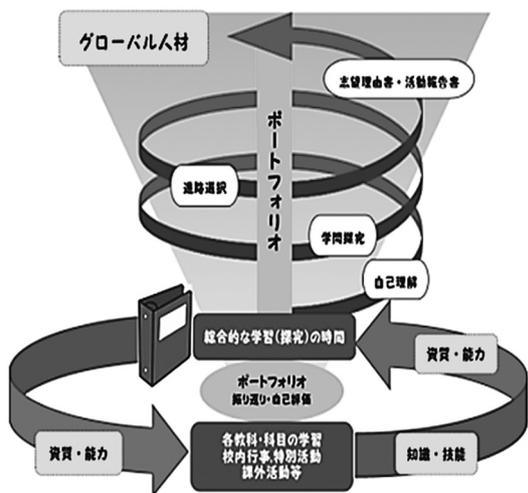


図2 ポートフォリオ活用イメージ図

このように課題研究と資質・能力の関連性を可視化することによって、生徒がつながりを意識しながら資質・能力を身につけることができるように工夫した。また、振り返りシートを記入するという振り返り活動をポートフォリオの一環として認識できることを期待した。

2 課題研究・発表会の進め方

B校がめざす生徒像は「自らの人間力を鍛え、将来はグローバルリーダーとして社会に貢献しようとする意欲にあふれた生徒」である。これを踏まえ、第2学年の総合的な探究の時間の目標は、「自己と自己を取り巻く社会を見つめ、現在や将来について真剣に考え、卒業後の進路を主体的に選択できるようになる。また、将来はグローバルリーダーとして活躍できる力を養う。」となっている。

課題研究の大まかな流れは、以下の通りである(表5)。

課題研究はクラスの枠を取り払い、自分の進路と照らし合わせて8分野(工学, 自然科学, 医療・薬学, 医療・看護, 人文科学, 社会科学, 教育, 生活科学)に分かれ、研究したい内容が似ている者同士が集まって班編成する。

平成31年度当初の4月にはガイダンスを行い、自分の研究したい内容や興味ある事柄について意見交換をしたのち、班分けする。その結果68班に分かれ、「持続可能な開発目標(SDGs)」³⁾との関連性を意識した課題研究テーマの設定を行った。これは、新学習指導要領の前文

表5 第2学年 年間計画(概略)

月	単元	学習内容
4	課題研究テーマの設定	ガイダンス, 課題研究班分け マインドマップ作成
5		探究マップ作成 テーマ決定 講演会
6	ポスターの作成	ポスターの作成
7	調査計画の作成, 情報の収集, 調査結果の分析と仮説の設定	ポスター発表, 大学教授等による課題研究の指導 「課題研究調査レポート」計画
8		「課題研究調査レポート」検討
9	仮説の検証, 研究の軌道修正・ 成果のまとめ, プレゼン作成, グループ発表	「課題研究調査レポート」情報共有及び提出 課題研究評価基準の確認 論文作成の手順説明 講演会 研究・論文作成
10		研究・論文作成
11	研究発表会と研究報告書作成	論文作成 グループ発表練習 グループ発表, 大学教授等による課題研究の指導
12		代表班決定 パワーポイントのスライド作成(代表班) ポスター作成(代表班以外)
1	研究発表会と研究報告書作成	スライド・ポスター作成・練習
2		ポスター発表(代表班以外) 課題研究発表会(代表班) 論文提出 1年間の振り返り

と総則には「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、各教科等においても、関連する内容が盛り込まれたことを踏まえてのことである。新学習指導要領では、各教科と総合的な探究の時間を関連させながら、持続可能な社会を創造する資質・能力の育成を目指していること、現在、持続可能な世界の実現に向けて17目標(SDGs)が掲げられていることに鑑み、SDGsと関連したテーマ設定を行うことにした。また、自分の興味・関心と社会・学術の課題が重なる部分から設定することで、問う価値のある社会的課題に向き合い、自分と社会とのつながりを意識しながらテーマ設定・研究・発表することを通して、社会貢献しようとする意欲の向上も意図した。

5~6月はマインドマップや探究マップ、問いの立て方に関する講演会を通して、課題研究テーマを決定し、仮説を立て研究し、結論(予想)を導き出していく。

7月には、各分野別に、研究内容の過程や今後の研究方法等についてポスター発表し、相互評価を実施する。発表の際には、各研究分野の大学教授等の協力を得て、指導を受ける。

8月以降は、相互評価や指導を反映させながら、11月の発表まで各班で研究を進めていく。11月の発表を経て、代表班を選出し、2月の課題研究発表会の発表班(8班)を決定する。代表班はパワーポイントによるスライド発表を行う。代表班以外は、分野混合でポスター発表を行った(表6)。なお、9月末から並行して論文作成し、翌年2月に提出する。

表6 発表方法

時期	課題研究の発表方法	評価(方法)
7月	ポスター発表(分野別に実施)	生徒相互評価, 教員評価
11月	ポスター発表(分野別に実施, 代表班選出)	生徒相互評価, 教員評価
翌年2月	スライド発表(各分野の代表班) ポスター発表(分野混合で実施, 代表班以外)	生徒相互評価, 教員評価等

3 振り返り活動

振り返り活動では、学習内容を記録し、進路選択に活かせるポートフォリオを目指し、3種類の振り返りシート(①毎時間の振り返りシート, ②講演会振り返りシート, ③学期振り返りシート)を作成し、活用した。これらの振り返りシートを活用し、課題研究を中心に、授業や学校生活を通して身につけた資質・能力について、学びのポートフォリオとして記録できるようにした。

振り返りシートは、コルブの経験学習理論に基づいたラーニング・サイクルを参考にした(図3)。コルブは、学びとは経験の変容を通して知識が作られる過程であると定義し、ラーニング・サイクルは4つの要素「具体的経験→内省的観察(振り返る)→抽象的概念化(考える)→積極的実験(実践する)」の繰り返しになっている。

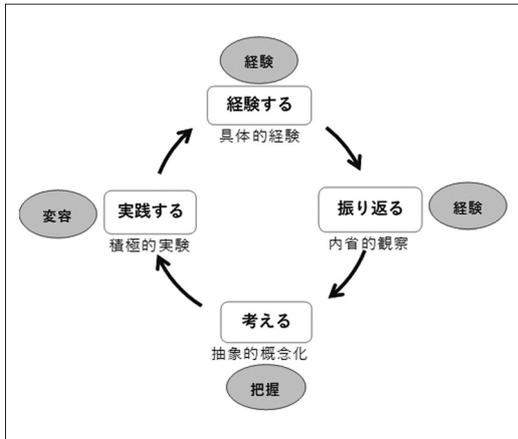


図3 ラーニング・サイクル⁴⁾
(コルブの経験学習理論に基づき筆者作成)

そこで、経験したこと(事実)だけではなく、気づいたこと、教訓、次へのステップ等を意識することで、行動に変化が現れ、成長することができると考え、書く内容を意識させ、振り返りシートへの記入を通して、自己理解を深めつつ、将来の自分を思い描き、主体的な進路選択につなげていくことを期待した。

① 毎時間の振り返りシート

毎時間の活動を日誌のように記録し、1年間の学びを蓄積するためのシートである。総合的な探究の時間は、学校行事との兼ね合いから、毎週1回実施されるとは限らない。そのため、生徒も教員も前時の活動内容を思い

出すのに時間がかかる等、スムーズに取りかかれないことがある。また、課題研究の論文からは「苦勞」、「葛藤」、「達成感」といった様々な感情、課題研究を通して学んだことや成長したこと等は思い出しにくい。そのため、課題研究に関する内容でAO入試や推薦入試を受験する生徒の入試対策という視点から、ポートフォリオとして位置づけた。記入内容は2項目で、1つは、「観点欄」で、「叡智」、「探究」、「協働」、「貢献」のいずれを意識した活動か記入する。もう1つは、取組に関する「コメント欄」で、1枚に4、5日分を記録できる様式である(資料2)。

振り返りシート				
探究サイクル 資質・能力	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
WHY	叡智	幅広い知識・技能, 教養		
	探究	課題発見能力	論理的・批判的思考力	課題解決能力
WITH	協働	コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力		
	貢献	主体性, 積極性, 責任感, 倫理観, 社会貢献, リーダーシップ		

◎クエストでの活動を振り返り、次回の活動へつなげていこう。

日付	視点(意識して取り組んだ項目に○印)	取組についてのコメント *実践(事実, 感想)だけでなく、気づいたこと、次へのステップ(計画)等も書きましょう
	叡智 探究 協働 貢献	

{ } グループ { } 班

年 組 番 氏名

捺印

資料2 毎時間の振り返りシート

② 講演会振り返りシート

講演を通して学び考えたことを段階別(講演前, 講演中, 講演後)に記録することで、生徒の思考が深まるように工夫している。講演前には、講演会を通して知りたいこと、講演中(講演内容)には、キーワード(印象に残ったことなど)、新たに知ったこと、講演後には、深く学校生活に活かせること(頑張ろうと思ったこと)を記入していく。また、関連する教科・科目や資質・能力についても記入する欄を設け、講演会を振り返り、講演内容と授業、学校生活とを結びつけて、行動に移すことを意識させた。

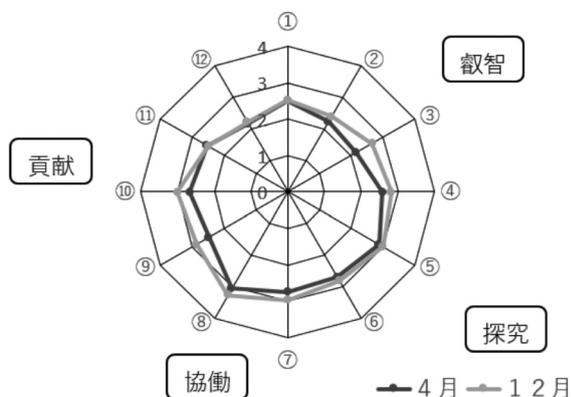
③ 学期振り返りシート

学期ごとに自分の変化や成長を振り返り、今後の目標を考えるためのものである。「学習に関する振り返り」と「生活に関する振り返り」に分けて記述できるようになっており、学びの蓄積や経験の言語化がしやすくなるように工夫している。「学習に関する振り返り」では、自己を変化・成長させた（頑張った）教科・科目を3つ挙げ、内容を振り返る。また、「叡智」「探究」「協働」「貢献」の4観点を意識しながら総合的な探究の時間を振り返る。さらに、資格・検定、部活動の成績、ボランティア活動等の欄も設け、努力したことや工夫したこと等を記入できるようにした。「生活に関する振り返り」については、変化・成長させた活動について、学校行事や委員会活動等を通して、感動したこと、気づいたこと、考えさせられたこと等を振り返る。最後に、これらの振り返りを通して、次学期の目標や具体的な行動計画を立てる。

4 自己評価の実施、生徒の資質・能力の変容

生徒の資質・能力の変容は、ルーブリックに基づいた自己評価により把握した。自己評価は、レーダーチャートで可視化を図り、そこから読み取れること等を自由記述させた。レーダーチャートにより、自己評価結果を視覚的に把握することができ、自己分析しやすくしている。

自己評価は、課題研究実施前（4月）と中間発表終了後（12月）に実施した。学年全体（318名）の数値の比較では大きな変容は見られなかった。しかし、全項目で数値が上昇しており、課題研究を通して資質・能力が向上したと実感していることがわかった。ここでは、課題研究発表会に選出された代表班8班の、生徒60名の自己評価分析を通して、生徒の資質・能力について考察する。図4は、代表班の自己評価の結果を示したレーダーチャートである。①～⑫はルーブリックの12項目を示している。



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
4月	2.5	2.2	2.2	2.6	2.9	2.7	2.8	3.1	2.5	2.7	2.5	2.2
12月	2.5	2.4	2.7	2.8	3.0	2.8	3.0	3.3	2.9	3.0	2.5	2.2

図4 ルーブリックに基づいた自己評価の結果(代表班60名)

5 生徒の資質・能力の分析と考察

課題研究発表会に選出された代表班は8班である。表7は、各班の資質能力に関する自己評価結果について、評価項目の上昇数と下降数について整理したものである。この表から、2つのグループに分け、自由記述を分析した。第1グループは、資質・能力が向上した項目数の方が多い班(C, B, D, E, G)、第2グループは、資質・能力が下がった項目数の方が多い班(H, A, F)である。

表7 代表班生徒自己評価の結果

代表班	生徒	上昇	下降	合計	代表班	生徒	上昇	下降	合計	代表班	生徒	上昇	下降	合計
C	a	2	2	上昇29 下降7	D	a	2	2	上昇21 下降8	H	a	2	1	上昇7 下降5
	b	データなし	5			1	b	データなし						
	c	6	0			c	5	2			c	2	3	
	d	11	0			d	5	0			d	3	2	
	e	4	4			e	1	3		A	a	1	5	
	f	6	1			f	3	0			b	6	3	
B	a	3	3	上昇21 下降6	E	a	3	4	上昇18 下降8	c	c	5	3	上昇7 下降5
	b	5	0			b	3	2			d	5	3	
	c	6	0			c	6	0			a	2	5	
	d	2	0			d	6	2		b	1	5		
	e	1	3		G	a	6	0	上昇19 下降10	F	c	6	1	上昇17 下降14
	f	4	0			b	4	2			d	3	1	
			c	2	7	e	2	4						
			d	5	1									
			e	2	0									

自由記述の内容を4観点到分類し、色分けしたものが表8である（最終頁のp.8に掲載）。赤：「～したい」「～すべき」「心がける」など、意欲に関する記述、緑：「低い」「よわい」「不足」など、否定的記述、黄：自己認識している資質・能力に関する記述、青：できるようになった事柄に関する記述となっている。どれにも色分けできなかった記述は「-」とし、4観点到あてはまらない記述は「その他」とした。

表8に基づき、2つのグループの記述内容について、それぞれの観点到関係する記述を集計したものが表9である。表9から、第1、第2グループを比較した結果、次の7点について指摘できる。

- ①青の記述の差が、赤や緑よりもはっきり出ている。特に、貢献に関する記述については、第2グループにはなかった。
- ②班員とのコミュニケーションや協働の差異によって、第1、第2のグループ分けがなされている傾向がある。
- ③第1グループは、4月の時点で、資質・能力を身につけることを意識しているような、意欲に関する記述をした班員の数が多い。
- ④第2グループは12月の時点においても、資質・能力不足を感じている。
- ⑤第2グループは12月の時点においても、できるようになったことが少ない。
- ⑥第2グループが課題研究発表会後（2月）にデータ

を取っていたら、変容を確認できた可能性がある。
 ⑦第2グループは4月の時点においても、資質・能力について不足を感じている傾向が強い。

表9 代表班自由記述の4観点分析の集計

第1グループ		C班		B班		D班		E班		G班		合計	
観点	色	4月	12月										
叡智	赤	3		2	1				1	2		7	2
	緑			1		1		1		2	1	5	1
	黄							1				1	0
	青				1		2				2	0	5
探究	赤	4	1	1	1	3				1		9	2
	緑			3		1		1			1	5	1
	黄						1	1				1	1
	青		1		1		2		1		1	0	6
協働	赤	2	2			2						4	2
	緑	1		1						1	1	3	1
	黄		2	2	1			1			1	3	4
	青		1		4		2		1		2	0	10
貢献	赤	3	2	1	1	1			1			5	4
	緑	1	1	1	1	2	1	1		1	1	6	4
	黄					1		1		1		3	0
	青				1		2				2	0	5

第2グループ		H班		A班		F班		合計		補正1.6倍	
観点	色	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月
叡智	赤	1	1	1		1	1	3	2	5.0	3.3
	緑	2	1	2		4	1	8	2	13.3	3.3
	黄	1						1	0	1.7	0.0
	青						1	0	1	0.0	1.7
探究	赤					1	1	1	1	1.7	1.7
	緑	1	1		1			1	2	1.7	3.3
	黄	1	1		1			1	2	1.7	3.3
	青						1	0	1	0.0	1.7
協働	赤		2			1	1	1	3	1.7	5.0
	緑	2		1	1	1		4	1	6.7	1.7
	黄	2		1		1		4	0	6.7	0.0
	青				2		1	0	3	0.0	5.0
貢献	赤				1	1	1	1	2	1.7	3.3
	緑	2	1		2	2	1	4	4	6.7	6.7
	黄		1			1	1	1	2	1.7	3.3
	青							0	0	0.0	0.0

分析の結果、課題研究を通して身につけたい資質・能力を意識しながら課題研究に取り組んだ生徒達は、班員とコミュニケーションや協働的に取り組むことにより、その伸長を実感できていることがわかった。したがって、資質・能力の設定の必要性・重要性が指摘できる。

6 総括的考察

以上のように、グローバル人材として生徒に育成したい資質・能力やルーブリックを明示し、興味・関心とSDGsが重なるテーマに関する課題研究を行った。生徒の変容を通して、以下の2点を読み取ることができた。

- ①資質・能力を身につけたいと4月に意識している生徒が多い班が12月に資質・能力の成長を実感できている傾向が見て取れる。
- ②より改善すべきことを指摘したり意欲を見いだしたグループが課題研究に取り組むと、資質・能力の育成をより実感できる可能性がある。

このことから、資質・能力の育成において、次の5点が導き出せた。

- ①資質・能力の育成には、メタ認知（現状把握と目標設定・意欲）に基づく意識付けと課題研究への取組が必要条件ではないか。
- ②課題研究に関する毎時間の振り返りシートにおいて、観点を意識して記述させることで、資質・能力の伸長を認識させる効果があるのではないか。
- ③折々に自身の資質・能力を振り返ることにより、観点を意識した学校生活を送ることができるようになるのではないか。
- ④教職員と生徒の共通理解のもと、指導することが求められる。また、3年間を通して、一貫した指導が求められる。
- ⑤教職員の協働・連携により資質・能力の向上を期待できる。すなわち、課題研究の指導に携わる教職員の協働・連携は必須である。

7 今後の展望

前章まで見てきたことに基づき、今後の展望を記す。これからの予測困難な時代に求められているのは自己認識力である。また、答えのない課題に挑戦していくためにも、既成概念から解き放たれたクリエイティブな発想が求められている。その上で、生徒が自己の在り方や生き方を考え、社会とのつながりや関わりの中で自分の個性を発揮し、多様な価値観を持った人々を大切にしながらグローバル時代を生きていく力が求められているのである。これまでB校がグローバル人材の育成に向け課題として取り組んできたように、グローバル社会の様々な分野においてリーダーとして活躍する生徒を育成していくためにも、まず、各学校において「叡智」「探究」「協働」「貢献」等といった観点から、生徒に育成したい資質・能力を設定し、教員と生徒間で共有することが重要である。

また、本実践研究を通して、コミュニケーションや協働の場として課題研究に取り組むことで、現状把握や新たな目標設定といったメタ認知に基づく意識付けを図ることが必要であることがわかった。生徒は意識することによって自身の資質・能力の変化や伸長を認識し、さらにスキルアップしようとする意欲や行動力が高まっていくからである。意識付けの際には、振り返りシートを活用した活動が有効的であり、折々に自身の資質・能力を振り返ることで、観点を意識した学校生活を送ることも期待できそうだ。このことから、ポートフォリオの一環として振り返りシートを活用した活動を充実させていくことが、資質・能力育成の手がかりと言えるだろう。

以上を踏まえ、総合的な探究の時間や各教育活動の特質を活かし、教科の壁を越えて、教職員全体で連携を図

りながら、生徒の資質・能力を育てていくことが求められている。

- ・文部科学省 高大接続システム改革会議 (2016) 「最終報告」
- ・文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
- ・文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領』

註

- 1) Society5.0 とは、内閣府によると、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」を指す。内閣府 HP 「Society5.0」
(https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)
令和元 (2019) 年 9 月 25 日閲覧
- 2) この改訂は、高等学校教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革の一体的改革である高大接続システム改革の中で実施されている。参考文献として、文部科学省 HP 高大接続システム改革会議 (2016) 「最終報告」
(www.mext.go.jp/.../b_menu/.../1369232_01_2.pdf)
文部科学省 HP 「大学接続改革」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/index.htm) 文部科学省 HP 「高大接続システム改革会議参考資料 1」
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm) 文部科学省 HP 「大学入学共通テスト」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1397733.htm) 文部科学省 HP 「大学入学共通テスト」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1397733.htm) HP はすべて令和元 (2019) 年 9 月 25 日閲覧
- 3) 2015 年の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」を理念に 2030 年までに達成すべき目標を 17 に分類し、その下に 169 の具体策を示している。
- 4) 出典は以下の文献による。
Kolb, D. (2015). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development* (2nd ed.) (p.51). Upper Saddle River, New Jersey: Pearson Education.

【引用文献・参考文献】

- ・井庭崇編 (2019) 『クリエイティブ・ラーニング創造 社会の学びと教育』, 慶応義塾大学出版社
- ・文部科学省 教育課程企画特別部会 (2015) 「論点整理」
- ・文部科学省 (2018) 「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる学びが変わる～」

表8 代表班自由記述の4観点分析

班	4月		12月		
C班	1	リーダーシップを育てるべき。(貢献) 探究を心がける。大切に。(探究)	貢献, 探究	貢献が低い。(貢献) 積極性, 責任感を心がけたい。(貢献) 協働を大切にしたい。(協働)	貢献 貢献 協働
	2	協働, 貢献が低い。積極性に欠けることが原因。(協働, 貢献)	協働, 貢献	協働は十分。(協働)	協働
	3	散智, 探究の不足。補っていききたい。(散智, 探究)	散智, 探究	思考力を養うべき。(探究)	探究
	4	協力, 知識を身につけたい。(協働, 散智) 積極的な発言したい。(協働) 相手の意見を取り入れよりよいものをつくりたい。(協働)	協働, 散智	コミュニケーション能力がよい。(協働) 積極的なコミュニケーションにより, 相手の意見をきけた。(協働)	協働 協働
	5	自分の意見をもちたい。(探究) 知識を身につけたい。(散智) リーダーシップを身につけたい。(貢献)	探究, 散智 貢献		
	6	論理的思考力, コミュニケーション能力を身につけたい。(探究, 協働) 積極的に取り組みたい。(貢献)	探究, 協働 貢献	精一杯研究できた。(探究) 探究は評価がよくなった。(探究) リーダーシップ, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力を身につけたい。(貢献, 協働)	探究 貢献, 協働
B班	1	積極的に社会のことを調べる必要がある。(散智) 課題をみつけ, 解決するの得意でない。(探究)	散智 探究	調べたことをもっと深く理解すべき。(探究) 論理的に説明できるようになるべき。(探究) 協働できた。(協働)	探究 散智 協働, 探究, 貢献
	2	貢献が小さい。伸ばすべき。(貢献)	貢献, 探究	バランスよくできている。(散智, 探究, 協働, 貢献)	散智, 探究, 貢献
	3	探究や協働は悪くない。(探究, 協働)	協働	もう少しがんばりたい。 リーダーシップをあけたい。(貢献) 幅広い知識をもちたい。(散智)	散智 散智 散智
	4	情報収集が弱い。(探究) コミュニケーション能力はある。(協働) グローバルな視点で考えられるようになりたい。(散智)	探究 協働 散智	コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力が身についた。(協働)	協働
	5	すべて不足。(散智, 協働, 探究, 貢献)	散智, 協働, 探究, 貢献	リーダーシップ力, 自ら行動する力が不足。(貢献)	貢献
	6	散智が不足。(散智) 貢献が不足。(貢献)	散智, 探究, 貢献	貢献が不足。(貢献) コミュニケーション能力はある。(協働)	協働 協働
D班	1	とりにくくもっている。 できていないことが多いと気づいた。		他者の考えを受け入れ, 協働できるようになった。(協働) リーダーシップはあいかわらず。(貢献)	協働 散智
	2	貢献を身につけたい。(貢献) 協働してよい発表をしたい。(協働)	貢献 協働	探究は十分。(探究) 貢献は不足。(貢献)	探究 貢献
	3	探究が不足。(探究)	探究	総合的な力を身につけた。(散智, 探究, 協働, 貢献)	散智, 探究, 協働, 貢献
	4	根拠に基づいて自分の意見を述べられるようになりたい。(探究) 主体性, 積極性なし。(貢献) 社会貢献できていない。(貢献)	探究 貢献		
	5	グローバルな視点が不足。(散智) 主体性, 積極性が不足。(貢献) 貢献度高い。(貢献)	散智 貢献 貢献	どの項目でもできるようになった。(散智, 探究, 協働, 貢献) もっとのびたい。 できることが増えた。	散智, 探究, 協働, 貢献
	6	探究度低い。探究心を身につけたい。(探究) 自己主張を積極的にしたい。(協働) 社会貢献できるように自分に何ができるかかんがえたい。(探究)	探究 協働 探究		
E班	1	協働できている。(協働) 責任感が強い。(貢献)	協働 貢献	リーダーチャートが立体的になった。	
	2	基本知識が不足。(散智) 発言や考えに自信がもてない。あいまいな意見だけ。(探究) 多くのことを知りたい。(散智)	散智 探究 散智	協働できた。(協働)	協働
	3	インターネットばかりで収集した。(探究) 消極的。(貢献) リーダー性に欠ける。(貢献)	探究 貢献	課題の肯定意見や否定意見を収集した。(探究) 全校アンケートをとって集計した。(探究) 新しい発見はなかった。 結論を導けた。(探究) もっとグローバルな視点をもちたい。(散智) リーダーシップを発揮したい。(貢献)	探究 散智 散智
	4				
G班	1	バカなので勉強しよう。(散智) 妥協できない。 主体性はある。(貢献) 力を備えていない。 自己肯定感が低い。 散智が低い。(散智)	散智 貢献 散智	散智よくがんばれた。 自分をほめたい。 熟意に実力がついてくるように精進したい。	散智 散智, 貢献, 協働, 探究
	2	学習を社会や文化にも関係づける力が必要。(散智) 幅広くグローバルな視野で見たい。(散智)	散智	校内アンケート, 書籍から身近なところや価値にふれられた。(探究) 散智, 貢献, 協働に成長が見られる。(散智, 貢献, 協働) 達成感や満足感が感じられた。 長い時間の励みが結果に表れるとモチベーションにつながる。	散智 散智, 貢献, 協働
	3	散智が低い。(散智) プレゼンテーション能力も低い。(協働) 責任感を持って, 信頼されるようになる必要がある。	散智 協働	散智, 貢献が低い。(散智, 貢献) 反省したい。 協働はよい。(協働) このままではだめだ。	散智 協働
	4	2が多い。 貢献が低い。(貢献)	散智 貢献	協働が上がった。(協働) 全体によくなった。(散智, 探究, 協働, 貢献)	散智 散智, 探究, 協働, 貢献
	5	自分の興味にふみこんで詳しく知ろうとして調べるべき。(探究)	探究	自分の情報量が少ない。(探究) なりたいたいものはなんとなくみつかった。 “できる”ことは増えている。 自分の持つ視点も増えている。 でも効果的に使えているか不明。	探究
H班	1	知識・技能は身につけている。(散智) 論理的思考, 課題発見・解決に至らない。(探究) 他者の考えを受け入れられる。(協働) 主体的発信は苦手。(協働)	散智 探究 協働 協働	散智, 探究が低い。(散智, 探究) 論理や考えを伝えることが低い。(探究) リーダーシップが低い。(貢献) 前回と大差ない。	散智 探究 散智, 探究, 貢献
	2	散智, 貢献が低い。(散智, 貢献) 目的意識をもつてとりにくめるようにしたい。 自分で調べて知識を身につけたりしたい。(散智)	散智 散智		
	3	探究や協働は高い。(探究, 協働) 散智, 貢献は低い。(散智, 貢献)	探究, 協働 散智, 貢献	全体のバランスはよい。 貢献の中にバラツキがある。 自分の考えを伝えるのは少し苦手。伸ばしたい。(協働)	協働
	4	自分が知りたい, 興味があることはわかっている。 具体性がない。 整理できない。 相手に伝えられない。(協働)	協働	探究心と貢献する心はあるとわかった。(探究, 貢献) 学力を伸ばしたい。(散智) 相手に伝えることが大切なのでできるようになりたい。(協働)	探究 散智 散智, 探究, 協働
A班	1	(コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力など)伝える力が不足	協働	情報量が多い。(探究) うまく伝えられない。(協働) 主体性, リーダーシップが弱い。(貢献) 考えや行動に責任をもちたい。(貢献)	探究 協働 散智 散智
	2	はっきりしないことが多い。			
	3	積極的に話している。(協働) (世界に関する)情報が少ない。(散智)	協働 散智	協働できた。(協働) 情報が得られなかった。(探究) プレゼンテーションはうまくできた。(協働)	協働 探究
	4	全体的に低い。 散智がとくに低い。(散智) グローバルな視点をもちたい。(散智)	散智 散智	協働できた。(協働) 積極性は十分。(貢献) 助けられなかった。	協働
F班	1	興味の幅を広げている。 意見を持つほど知識がない。(散智) ひとりよがり。	散智	頭が固い。 説明する力が向上していない。(協働)	協働
	2	やる気はあるが実力がともなっていない。		自分しか興味がない。 自分の将来を考えたり, 疑問に答えを出す方が楽しい(世界をより良くしたいけれど)。	
	3	グローバルな視点が低い。(散智) 積極性がない。(貢献)	散智 貢献	リーダーシップがない。(貢献) 積極性がない。(貢献) 思考力が身についた。(探究)	散智 散智 散智
	4	散智, プレゼンテーション能力が低い。(散智, 協働) コミュニケーション能力, 主体性, 積極性は高い。(協働, 貢献) 散智, 社会貢献が不足。(散智, 貢献)	散智, 協働 協働, 貢献 散智, 貢献	散智, プレゼンテーション能力が(前回より)身についた。(散智, 協働) グローバル時代に必要知見, やりたいこと, すべきことを考えたい。(散智) 散智が不足。(散智)	散智, 協働 散智 散智
	5	全体的に資質・能力を高めた。(散智, 探究, 協働, 貢献)	散智, 探究, 協働, 貢献	学びを深めたい。(探究) プレゼンテーション能力, 社会貢献も高めたい。(協働, 貢献)	散智 散智, 協働, 探究, 貢献